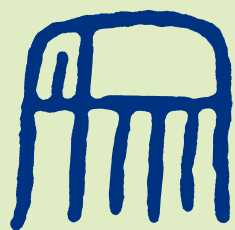


同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



京都市立芸術大学移転整備について

京都市立芸術大学では、京都駅東部への移転整備に向けて、これまで京都市との協議、検討を進めてきました。

平成27年3月には「京都市立芸術大学移転整備基本構想」が策定され、同年8月には京都芸大の新キャンパスを「京都の市民文化の新たな火床」（床＝テラス）として位置付ける「移転基本コンセプト」をとりまとめました。

その後、京都市における移転整備のスケジュール変更（平成35年度にキャンパス全体を一括で移転する）等の決定を受け、更に協議・検討を進めており、平成28年度中に、移転基本コンセプトやキャンパス計画、事業計画等を盛り込んだ「京都市立芸術大学移転整備基本計画」を策定いたします。

今後は、下記のスケジュールのとおり、設計者をプロポーザルにより選定し、設計者からの創造的な提案と対話を重視した設計、更に工事等を進め、平成35年度の新キャンパスのオープンを目指します。

●移転整備スケジュール

年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
実施内容	基本計画	プロポーザル	基本設計・実施設計		工事（施工者選定期間含む）			新キャンパス オープン

☆移転に関するこれまでの詳しい内容は、冊子やインターネットで閲覧できる京都市立芸術大学移転整備基本計画（案）に記載されます。移転地域におけるまちづくりや移転整備の基本方針、キャンパス計画、配置計画、事業計画などが閲覧出来ますので是非ご覧ください。この基本計画案に対し、市民意見（パブリックコメント）を京都市が募集していますので、同窓生の貴重なご意見として、たくさんのご応募お願い致します。

1. 冊子の配布、インターネットの閲覧、市民意見の募集期間

平成 29 年 2 月 1 日（水）～平成 29 年 3 月 5 日（日）[消印有効]

2. 冊子の配布場所

市役所、区役所、支所、出張所及び図書館

○冊子の裏面に応募用のご意見記入用紙が付いています。

3. インターネットからの閲覧

アクセス方法 京都市情報館（京都市ホームページ）<http://www.city.kyoto.lg.jp/> より

[トップページ] → [市政情報] → [市民参加] → [市民意見（パブリックコメント）] → [[京都市立芸術大学移転整備基本計画（案）]の市民意見募集について]

意見募集に関する資料として、PDF形式のファイルで冊子と同じ資料が閲覧出来ます。

4. 移転整備基本計画（案）に対するご意見応募方法（京都市民でなくても応募出来ます。）

郵送、FAX、電子メール、京都市ホームページ（京都市情報館）内の送信フォームのいずれかにより提出してください。

○郵送 〒604-8571 京都市行財政局総務部総務課宛
（住所記載不要）

○FAX 075-222-3838

○電子メール soumu@city.kyoto.lg.jp

○送信フォーム 京都市情報館のURLにおいて、提出が可能です。

5. お問い合わせ先

京都市行財政局総務部総務課（電話 075-222-3045）

Head line

京都市立芸術大学移転整備について……………	1
同窓会展 1980 年代再考のためのアーカイバル・プラクティス ……	2
同窓生だより 東山から洛西へーふたつの学舎を経験して ……	3
描き歌い伝えてー今熊野学舎ー ……	4
研究室だより 構想設計研究室……………	5
ビジュアルデザイン専攻研究室……………	6
第 4 回「象の店」開店……………	7

Relay Talk 「象の会・いろあわせ」……………	8
ナクソス・ミュージックライブラリーを利用しませんか？ ……	8
退任にあたって……………	9
会員展覧会……………	10
学内消息（資料）……………	11
事務局だより……………	12
編集後記……………	12

京都市立芸術大学美術学部同窓会展

1980年代再考のためのアーカイバル・プラクティス

会 期：2017年2月18日（土）-3月5日（日） 11:00-19:00（月曜休館）

会 場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

入場無料

ポストモダン全盛期、欧米から輸入された概念に依らず独自の表現が進化していった1980年代。東山区今熊野にあった旧校舎から移転（1980年）したばかりの西京区大枝杵掛町キャンパス（現校舎）では、学生たちが東京藝術大学との交流展「フジヤマゲイシャ」を企画するなど、非常に意欲的な活動を展開していました。それらの活動は、80年代の日本美術を考える際の重要なキーワードである「関西ニューウェーブ」へとつながっていきます。

この度、次の移転に向けて、前回の移転前後の本学とその背景について改めて考えるために、本学を中心とした80年代の動向を探るプロジェクトを立ち上げました。本展は、そのプロジェクトの一環として実施するものです。同窓会の呼びかけにより集まった、80年代に制作された卒業生の作品ならびに本学芸術資料館収蔵品から当時の卒業・修了作品を展示するとともに、「フジヤマゲイシャ」を中心とした本学にまつわる資料も公開致します。同窓会のみならずのご協力により、お借りできました貴重な資料も多く含まれています。

「具体」や「もの派」など、戦後日本美術の海外での評価が高まる中、それに続く80年代の動向もまた注目されつつあるものの、日本の美術研究において80年代は未だやや抜け落ちた時代となっており、整理された文献や資料等も少ないのが現状です。当時のお話を会場にてお聞かせいただければ幸いです。

本展終了後も、プロジェクトの活動は継続して行っていますので、引き続き、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（@KCUA 学芸員 藤田 瑞穂）

出展作家：

阿部 緑（1983年工芸科染織専攻卒業、1985年大学院工芸専攻（染織）修了）

飯塚二郎（1989年美術科版画専攻卒業）

石原友明（1982年工芸科デザイン専攻卒業、1984年大学院絵画専攻（造形構想）修了）

上野政彦（1981年彫刻科卒業、1983年大学院彫刻専攻（彫刻）修了）

大谷史子（1988年美術科日本画専攻卒業）

岡田英子（1980年美術科日本画専攻卒業、1982年大学院絵画専攻（日本画）修了）

片野 満（1989年美術科油画専攻卒業、1992年大学院絵画専攻（油画）修了）

久保隆三・沖勝之（共に1981年工芸科デザイン専攻卒業）

栗本夏樹（1985年工芸科漆工専攻卒業、1987年大学院工芸専攻（漆工）修了）

小池一範（1986年美術科日本画専攻卒業、1988年大学院絵画専攻（日本画）修了）

田川真千子（1986年工芸科漆工専攻卒業、1988年大学院工芸専攻（漆工）修了）

田所裕子（1981年日本画科卒業、1983年大学院絵画専攻（日本画）修了）

玉腰久美子（1982年工芸科塗装専攻卒業、1984年大学院工芸専攻（漆工）修了）

砥綿正之（1982年美術科日本画専攻卒業、1986年大学院絵画専攻（造形構想）修了）

長尾浩幸（1984年美術科版画専攻卒業、1986年大学院絵画専攻（版画）修了）

橋本桂子（1987年美術科油画専攻卒業、1989年大学院絵画専攻（油画）修了）

長谷川直人（1983年工芸科陶磁器専攻卒業、1985年大学院工芸専攻（陶磁器）修了）

前野正司（1980年工芸科塗装専攻卒業、1982年大学院工芸専攻（漆工）修了）

明賀政子（1985年工芸科陶磁器専攻卒業、1987年大学院工芸専攻（陶磁器）修了）

村上吉寿（1987年デザイン科プロダクトデザイン専攻卒業、1989年大学院デザイン専攻（インダストリアルデザイン）修了）

主 催：京都市立芸術大学、

京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会

（平成28年度 京都市立芸術大学 特別研究助成 2016-004）

【関連イベント】

<ギャラリートーク>

ゲストに原久子氏（大阪電気通信大学教授）を迎え、出展作家や同窓生を交えたギャラリートークを行います。

日 時：2017年2月18日（土）14:00 - 15:30

<オープニングレセプション>

日 時：2017年2月18日（土）16:00

<アーカイブ研究会>（平成28年度 文化庁 大学を活用した文化推進事業「状況のアーキテクチャー」公開講座を兼ねる）

当時を知る美術批評家などをゲストに迎え、展覧会出品作品や資料のほか、プロジェクトを進める上で集まってきたカタログやフライヤー、ポスターなどを検証しながら、1980年代の本学について考える機会とします。

日 時：2017年3月4日（土）14:00



研究会の様子



「フジヤマゲイシャ」カタログ



集まった資料（一部）

東山から洛西へ

ー ふたつの学舎を経験して

小曾根 環 (旧姓 森) (1984 年大学院絵画専攻油画修了)



講義棟バロック L5前にて 共同制作
(写真提供: 1985 大学院工芸専攻漆工修了 水馬弘策)

1978年4月の桜が舞う中、夢で胸一杯の私は、東山七条今熊野の芸大へ続く坂道を登りました。喫茶かをり、山田大画堂の間を通り抜け、管理助教(学生の当直室)を横目に門を潜ると、木立の中に見え隠れする学食がありました。

更に進むと、大正15年の建築と言われる、なんとも風情のある学舎が佇んでいました。一歩中に踏み入れると目に飛び込んてくるのは、レトロな階段、歩けば軋む床、朽ち果てたドアや壁。芸術を学ぶにふさわしいその環境は、不思議と居心地が良いものでした。校舎前には丸池があり、コンパ等では誰でも一度はそこに投げ込まれ洗礼を受けるという儀式(伝統)がありました。私ももちろん洗礼を受けましたが、とても良心的な洗礼で、前日に予告があるので、着替えの用意もできました。その横には二階建てプレハブがあり、1回生ガイダンスはその4つの部屋に振り分けられました。1回生の前期最後のカリキュラムは共同制作で、夏休みも返上でそのプレハブによく集まったものです。又、丸池前にある一階建てバラックで学科の授業を受けながら窓の外を眺めると、おそらく日本画科の学生用のモチーフ、黒山羊がメ〜と鳴いていました。学生が飼っていた犬のタケシは、当時の学長、梅原猛氏の名前からとったもので、学長が近くにおられる前で「こら、タケシ」と呼び(確信犯)、学長は笑って見ておられたそうです。タケシのおでこには常に眉毛が描かれていて、雨等で薄くなってくると、誰かがきちんと描き直していました。

秀逸なのが学食の厨房を守り続けた孤高のお爺さんのエピソードの数々。茶葉の由来とか…

夕方になれば軽音部の練習が始まり、それをBGMに夜まで制作をしたのも、旧校舎ならではです。

私はラグビー部に所属しており、芸祭では赤禪一丁で山車を引き乍ら街中を練り歩くプレイヤーを暖かく見守るマネージャーでした。試合では一緒に走ることはないですが、怪我をしたプレイヤーにヤカンで水をかけたりしながら、緊張感を共に味わう事ができました。実技は西洋画科で三尾公三先生に御指導頂きました。講評会では作品の完成度や格調の高さについてよくお話をされていました。現在の制作でもそのお言葉は生きています。

そんなこんなで、東山学舎のはのんびりとした雰囲気の中にも、ぴーんと1本筋の通った緊張感がありました。

1980年4月の桜が舞う中、少し育った夢を抱えた私

は、大枝杏掛の新校舎で3回生となりました。

校舎は綺麗になっても、のんびりとした中の緊張感は、東山学舎からしっかりと受け継がれていたように思います。

新校舎での思い出は、桂からのバスの便が少なく、原付に乗り始めたこと。学食が綺麗になったこと。新校舎とはいえ、暖房こそありましたが、現在の様にクーラーはなかったので、夏場は37度の室温の中、背中に滝のような汗を感じながらの制作でした。ラグビー部では芸祭でのゲイバー(マネージャーに課せられた仕事はプレイヤーの眉毛を剃り落とすこと!!)、彫刻科の三宅多喜男先生の御指導の元に行なわれた豚の丸焼き等、カオスな部分もやはり東山から受け継がれていました。学生数が少ない大学ですので、縦の繋がりも強く、西洋画科(大枝杏掛学舎に移転後の名称は油画専攻となった様です)の部屋のメンバーを中心に丹後半島までツーリングをした事。彫刻科の福嶋敬恭先生のアトリエを訪ね、新鮮なアワビを御馳走になった事。海岸でのテントでの宿泊。学生ならではの思い出の数々は今でも大切な宝物です。学年が大学院へと進むにつれ、制作中心になってくるので、制作室に籠る時間が長くなり、思い出も作品にまつわるものが増えてくるのですが…なんと新校舎の油画科の教室で、生涯のテーマとなる床板の木目との奇跡的な出会いがあったのです!企画の個展やグループ展、ビエンナーレや芸術祭等に出品の機会を頂けるようになったのも、この木目たちとの出会いがあったからこそです。その新校舎も今や朽ち果て、次の移転計画が進んでいます。学生時代の思い出が多く残る学び舎がなくなってしまうのは、寂しい限りですが、老朽化となれば致し方ないですね。その、もうじき旧校舎となる大枝杏掛学舎に、現在、娘が通っており、大学院の日本画でお世話になっております。昔に比べ、女子の数が圧倒的に多く、校内での飲酒も禁止となり、それらを聞いただけの印象としては昔と随分違ってきたように思われるかも知れませんが、実際に潜入してみると、教授の方々が四つに組んで学生達とお話をされ、熱心に学生達と関わっておられる様子が伺え、学生達も学生生活や行事を楽しみながらも、真摯に制作に勤しんでおり、良き校風は脈々と受け継がれているように感じます。



東山学舎エントランス前にて 共同制作
(写真提供: 水馬弘策)



ラグビー部 1980年頃 試合後の集合写真 (写真提供: 1982デザイン専攻卒業 榎本信之)

描き歌い伝えて ―今熊野学舎―

われらをはぐくみし学舎にささげる

門標	本館玄関、丸池	学校犬“タケシ”
講堂		染織
塗装	デザイン（木工室）	彫刻

昨年2016年に写真家井上隆雄さんが亡くなられました。春に開催した「同窓会アートフェア2016」に作品を出品いただいてから数か月後のことでした。井上さんは、1965年の工芸科塗装専攻卒業生で、芸大が今の洛西大枝に移る前の姿をカメラに収め、1980年に写真集「描き歌い伝えて―今熊野学舎―」として出版されましたので目にされた方も多いと思います。この度、その写真集とフィルムが大学へ寄贈されました。大学の再移転計画が進んでいる今、改めて今熊野学舎の画像を皆さんに見て頂きたく、ご遺族の了解を得てその一部を掲載いたしました。



構想設計研究室

高橋 悟
構想設計専攻 教授

構想設計教室は、1980年の沓掛への大学移転を機に専攻として独立した。学部生・院生を合わせて10人という小さな専攻で、70年代の試行錯誤と苦悩の記憶を留めながらも、新たな模索がスタートした時期であった。タバコの煙が立ち込めるゼミ室で夜遅くまで活発な議論を交わす異色の専攻で、特定の技法にとらわれない、生なりアリティの実験場でもあった。専攻設立時は、構想設計教室（専任2名）と厳密に写真をメディアとして扱う映像設計教室（専任1名）からなり、学生から見れば全く別の専攻で、授業間の交流はなかった。それは、西洋画科構想設計教室、デザイン科映像教室、彫刻科ポリマテリア教室という文脈の異なる教室を取りまとめて、一つの専攻として独立したという背景にも起因する。当時の構想設計教室のカリキュラムは、①形象と知覚（関根勢之助ゼミ）②物質・空間（佐野賢ゼミ）③記号と表現（林剛ゼミ）以上3つのゼミを学生が選択するという体制であった。



それから36年の時を経た今、崇仁学区への大学移転を控え、新たな転機が始まろうとしている。現在の構想設計は、学部・修士・博士さらに留学生を含め55人前後の学生が所属し、その気風も時代に応じて変化してきた。情報発信の手法が多様化する一方で、学生にとって現代美術や批評は死語となりつつある。世界のパンドラの箱が開いたような状況の中、従来のメソッドを反復するだけでは、学生の生のリアリティに対応する事が難しくなっている。現在のカリキュラムは、専任教員（砥綿正之、石橋義正、高橋悟）によるゼミ制を取っており、

①情報と記録「映像や写真を含む情報メディア並びにプログラミング、記録と歴史/記憶」②相互行為「集団やコミュニケーションの視点から身体、映像など複数メディアを活用した表現」③構築「芸術を媒介に多様な領域を関係付け、新たな概念、空間、状況を構築する。」以上を柱にしている。芸術を取り囲む環境が多様化するなか、招聘講師によるワークショップや講演も活用する事で、個々の学生が、独自の指向性を持った居場所を持てるよう配慮している。それは必ずしも先鋭的アーティストを養成する場を目指したものではなく、芸術を媒介にした多元的な生の在り方を身につけることでもある。

「構想設計ってどんな専攻ですか？」と卒業生100人に聞けば、100通りの答えが返ってくるだろう。そこには、また独自の思いが込められているはずである。「卒業生からの報告：構想設計1970-95」に寄稿した頃は、構想設計は「空き地」みたいなものかと思っていた。「無限定な風景の中で、空き地を静かに差し出すことは、多分、空間的な場所のみではなく、無目的な待つことを一時的にせよ実際に存在させること、いまここにありながら、どこにもない風景の中で空き地と共に作品として差し出される贈り物を受けとめる者として想定された他者が無規定であるのは、美術の文脈を超えた広がりの中で人々を想定することではなく、住所氏名職業を欠いた人との出会いから作られる場所・共同体が存在不可能であり、仮に存在してもそれは、人相、声が変調された管理網の中にであり、今日の祝福が明日の罵倒に自然に変わるような場でしかないから。概念として想定しうる全ての聴衆形態のネガとしてある想定しえない聴衆が空き地によって祝福されるものとして待たれている。」

いまは少し違った風を感じている。空き地でなくて「仮設小屋」。大きな建築物が建てられる前には、まず現場に仮設作業小屋が立つ。先に立つ小屋の形と後で建つ建築の形には何の関連もない。それは、計画や設計とは位相の異なる記録に残ることのない生の時空へと接続されている。



ビジュアルデザイン専攻研究室

辰巳明久 滝口洋子
ビジュアルデザイン専攻 教授

今回、寄稿する機会をいただきましたので、ビジュアルデザイン専攻の学部教育をご紹介します。

描くことを重視する教育

ビジュアルデザイン専攻の教育の特徴は、描くことを全ての造形の基盤と位置付けていることにあります。コンピューターの導入が進んでいること、そして、デザインという言葉の概念が、計画することに重心を移しつつある社会の中で、本専攻では、これまでと変わらず描くことを重視する教育を行なっています。

この描く授業は、色彩構成と描写が二つの柱となっています。

色彩構成は、上野リチ先生以来の伝統である、色紙、裂紙（きりかみ）、ステンシルなどの技法を使った実習を大きな特徴としています。これらの技法は、イメージを色彩と形態によって視覚化しながら瞬時の判断を重ねることによってオリジナリティある世界観を創出することを主眼としています。

描写の授業においても、対象を頭のなかで論理的に整理して表現する以前に、“視るように描く”すなわち、視覚からの情報を手に伝える円滑な回路を作ることを目指しています。

基礎から続く色彩構成と描写の授業を軸として、3回生の授業に、イメージした世界を自由に表現するイラストレーションと、スケッチを元に独自のパターンを作るテキスタイルの課題を加えることで、学生たちは、独自の画風を修得していきます。

また、文字については、デザイン基礎で行なっているレタリングの授業を基盤としながら、4回生までにオリジナルのロゴタイプを作る力を醸成するための授業を階梯化しています。文字の授業においても、徹底して手で描くことを重視しています。

平面から多素材を使った立体、空間への展開

専攻教育の大きな特徴である色彩構成、描写、レタリングを立体と空間に展開する課題として、3回生は、パッケージデザインの課題に取り組みます。

学生たちは、このパッケージデザインの課題で、多くの種類の紙、布、紐、プラスチックなど、多くの素材を自由に選択して制作をします。



描くことを全ての基盤とした教育

この課題では、ユーザーの設定を行います。またこの課題には、ユーザーに向けてパッケージをどのように配置すれば円滑な情報伝達ができるのかという、ディスプレイデザインと店舗のインテリアデザインを含んでいます。

このように、パッケージデザインの課題は、ここまでの授業の中心的テーマであった自己表現だけでなく、他者のためのデザインについて学ぶこと、そして、多くの素材に親しみながら、平面から立体、空間へ展開するデザインについて学ぶことをテーマとしています。

パッケージデザインは美しい物である一方で、保護機能や伝達機能など、機能性を満たす必要があり、それには論理的思考が必要となります。この課題で学生たちは、感性と論理的思考を織り上げるデザインのワークフローを実体験します。

平面から身体への展開

4回生の前期には、これまでに培った独自の世界観のあるイラストレーションを使った浴衣の制作を行ないます。デジタル出力により、見頃、袖へと続くダイナミックな絵羽表現が容易になり、等身大のイラストレーションを全身に纏うことで身体と素材、色彩との関係を学びます。この課題は後述する卒業制作と平行して行なっています。

問題解決型のデザイン (Problem Based Learning)

平面から空間までのデザイン手法を学んだ後、学生たちは、3回生の後期に問題解決型の授業 (Problem Based Learning) として、インクルーシブデザインの課題に取り組みます。

インクルーシブデザインとは、これまでのマス・マーケットを重視する大量生産型の社会において、市場が小さいゆえに対象とされなかったマイノリティの人たちに向けたデザインをすることを言います。このインクルーシブデザインの大きな特徴は、マイノリティと位置付けられてしまっている方々とデザイナーが、共にデザインすることにあります。すなわち、教育におけるインクルーシブデザインでは、マイノリティの方に、授業に参加していただくということです。2015年度と16年度、3回生のインクルーシブデザインの授業には、視覚障害者の方に参加していただいております。学生たちは、視覚障害者が晴眼者と共に暮らすために必要なプロダクツ



文字のデザインも手書きを重視

やサービスを開発しています。

また、この授業には、京都大学総合博物館准教授で、インクルーシブデザイン研究の日本の第一人者である塩瀬隆之先生と、公益社団法人ネクストビジョンに所属され、神戸アイセンターのプロデュースをされている奥田圭太先生にもご参加いただいています。

問題発見型のデザインとしての卒業制作

3回生で問題解決型の授業に取り組んだ学生たちは、4回生の1年間、問題発見型のデザインとして、卒業制作に取り組みます。

3回生の問題解決型デザインで言うところの問題とは、教員が設定した社会問題を指します。それに対し、卒業制作で言う問題とは、学生個々が持つ内発的な問題を指します。つまり、一人のクリエイターとして何を作るべきか、作りたいのかという”私”から始まる問題を、自己と社会との関係と照らし合わせながら創作のテーマとして設定してするということです。この卒業制作の定期的なゼミの中で、教員は、学生たちが発案する多様なテーマに対し、多角的な助言を1年間に渡り行います。

学内外の様々な連携

ビジュアルデザイン専攻では専攻独自の国際交流を行なっています。

2000年からパリの ENSAD (L'École nationale supérieure des Arts Décoratifs) との共同授業を開始し、2009年度からは、ハンブルグ応用化学大学(独)、パーソンズ スクール オブ デザイン(米)、ボローニャ大学(伊)などとイラストレーションの共同授業を定期的に行ない、毎年3月下旬から4月にかけて、ボローニャ市内で展覧会を開催しています。

国内の大学では、2013年度から京都大学デザインスクールとの連携を行っており、医療工学、情報学、経済学などを専門とする多くの京都大学の先生方に、PBLの授業にご参加いただいています。

地域連携では、教員が、西京区役所洛西支所、NPO 法人らくさいライフスタイル、洛西地区にある多くの企業、そして地域住民の皆さんと共に、西京区大原野地域の活性化を目標とした活動を行い、その活動を授業に組み入れており、2014年度と2016年度のパッケージデザインの授業では、大原野の農産物を使った加工食品をテーマにしています。

また、学内連携として1990年代から、音楽学部の演奏会のフライヤーのデザインを授業の一環として行なってきました。音楽学部の先生や学生達がクライアントとしての役割を果たしていただくことで、本専攻の学生たちはデザインの実践的な体験ができています。

教員が行うデザインの実践を授業にフィードバック

このような一連の授業体系を立案する背景には、専任教員と非常勤講師の実践的な研究活動があります。ビジュアルデザイン専攻の教員は、大学内だけの活動に留まらず、社会の中でデザインの実践的な活動を行っており、その経験を授業にフィードバックしながら、授業内容を毎年改定することを旨としています。



京都大学との連携授業

第4回「象の店」開店

昨年の秋(11月5日~7日)、芸大祭に同窓生が参集し、交流を深める場として同窓会模擬店「象の店」を開店しました。今回で4回目になり、美味しいお酒と湯豆腐の店として定着してきたように思います。今回は店主(上村淳之会長)が都合で参加できませんでしたが、ラグビー部やサッカー部OB/OGのメンバーが集まり賑やかな場となりました。売り上げも例年通りの数字となり、支出も予算の範囲内に収まりました。来年度以降も「象の店」を継続して参りますので同窓生各位のご支援よろしくお願いします。



象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーで、懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

きだ けんじ 喜田 健嗣

1981年（昭56）日本画専攻卒業

専攻科2回の時、洛北高校定時制に非常勤で勤めたのが教職の始まりでした。その後京都市立藤森中学にて非常勤から専任となり、深草中学で昨年退職するまで美術を教えました。教えると言うより、楽しむ、新たに学ぶ、33年間だったと思います。経済的にも社会的環境にも恵まれない生徒と関わる事も多く、絵を描いたり、創造する体験が生き方に深く関わることをたくさん学ばせていただきました。現在は再任用でハーフタイム勤め、教職のスタート時と同じ美術の授業だけの新鮮な日々を送っています。まだまだ彼らと共に豊かな体験を重ねていくつもりです。

20年前に美術教育研究会のお仕事をさせていただいた時は、幼保から大学、社会教育までの造形活動に京芸OBの方々が広く地道に関わっておられることを知りました。7年前に京都で開く美術教育全国大会事務局をした時には、上村淳之先生をはじめ京芸のOBの方々に助けていただき、とても感謝しております。昨年は卒業以来34年間案内を送り続けてくれていたバレーボール部のOB会に初めて参加しました。案内した名簿の数は美研の数に近づくほどだそうです。在学中には想像もできませんでしたが卒業後も永らく大学と関わらせていただいています。ずっと制作を楽しんでこられていることにも喜びを感じています。



次号に紹介される方は、

金井 良輔さん

1975年（昭50）彫刻科卒業です。



そがべ せつこ 曽我部 世津子

2015年（平27）日本画専攻卒業

大学院を卒業後印刷会社に就職し、もうすぐ2年になります。

IllustratorやPhotoshopなどで作成頂いたデータをチェックしたり、印刷製造に携わったりしています。

私が作品を作る立場では無いのですが多くの作品やデザインを見ることができ、色々と吸収することがあり楽しく仕事させていただいております。

特に在学中はアナログのみだったので、触ったことがなかったソフトに関して多く調べ、新しい分野のスキルが上がったと思います。

仕事を始めるとやはり仕事中心の生活となり、なかなか日本画制作は難しいですが、有り難いことに縁があり、昨年も今年も作品を展示させて頂ける機会をいただきました。

「自分が描きたいときに描く」

それをモットーに今は無理せず自分らしく仕事と制作活動を両立していきたいです。

1月、東京に異動となりまた新しい出会いや経験ができるので期待で胸がいっぱいです。



次号に紹介される方は、

高木 智子さん

2015年（平27）油画専攻卒です。

ナクソス・ミュージック・ライブラリー <http://ml.naxos.jp/> を利用しませんか？

真声会と象の会は2013年より情報・意見交換の場として定期的に連絡会議を設け、昨年は「同窓会アートフェア2016」の会場で真声会会員によるリレーコンサートを企画していただくなど、交流を深めてきております。

この度、真声会から真声会会員のために団体契約している「ナクソス・ミュージック・ライブラリー（NML）」利用の提供を受けました。

NMLはクラシックを中心とする膨大な音源が聴き放題の「ストリーミング」方式のインターネット音楽配信サイトです。無料で使用できますが、個人の契約とは違いスマホやタブレットでの使用ができません。また、店舗やイベント等でNMLを使用して音楽を流すことはできません。（但し、大学の講義等で使用することは特別に許諾されています。）

次の2点の条件を満たした会員でご希望の方はメールで同窓会事務局（office@kyogei-ob.jp）までご連絡ください。

- ①作品（映像作品に入れる音源の下調べなど）制作に利用する目的の会員
- ②終身会費納入済の会員

退任にあたって

共通教育・心理学

高橋 成子



研究室のある本部棟を望む

本学に25年間勤務し無事定年退職を迎えることができましたのは、ひとえに教員・事務職員の皆様の支えと寛容な心、そして、私の下手な講義を我慢強く聴いてくれた学生諸君のお陰と感謝しております。私は元来無精者で人づき合いも不得手な上に、大学院在学以降、実験室と自宅との往復で会うのは共同研究者達と家族のみという生活でしたので、本学着任当初は戸惑う事ばかりでした。幸いに、京都芸大は人が少なく静かで自由な雰囲気、私にとっては有難かったです。人前が苦手なので講義は苦行でしたが、教養教育に携わったおかげで自分の研究に没頭できたのも有難いことでした。ただ、学生への講義では、今、目の前の学生にとって何が必要かを考えながら、学生たちが今後自分を信じて生きていけ

るよう自分なりに講義内容を組み立てるよう努力しました。思いが伝わったかどうかはわかりませんが。

私の今の思いは、京都芸大も含め、大学が物事を自由に深く考えることのできる場であり続けてほしいということです。常に自由でありたい私の自戒の言葉は、カントの2つの断言の命令、「汝の意志の格率が常に同時に普遍的立法の原理として妥当しうよう、そのように行なわれよ」と「汝は、汝の人格におけると同様あらゆる他者の人格における人間性を、常に同時に目的として使用し、決して単に手段として使用せぬよう、そのように行なわれよ」です。25年間、自由であり続けさせて下さった京都芸大の皆様の御厚誼に対しあらためて心より感謝致します。

染織研究室

ひろい のぶこ



今思い出すのは、「京都におもしろい学校があるんや」という中学の美術教師松井亮造先生の言葉である。そして、そのおもしろい大学で六年間を過ごし、また十年後に専任教員として戻ることになった。恩師が過ごした終戦後とは大きく様変わりした70年代、大学紛争直後だったが、ここはやはり「おもしろい学校」であった。

現在の総合基礎実技がスタートしたばかりで、先生方も手探りであったろう。多彩な造形教育のラディカルな実験的試みが、教える側と学生の共同作業によって次々に展開された。その後も毎年主人公たちが入れ替わりながら再生を繰り返して、今に受け継がれている。

その後も、私は繊維をおもな素材として創作活動が続けてきたが、一方で日本列島の忘れられた手織布を訪ね歩いた。それは柳田国男の言う「木綿以前の」布であり、樹皮や草皮から作られる。そうしたアジアの古層としての染織文化研究を本としてまとめたが、その後も二足の草鞋というより、左右で色の違う靴下をはいているようだ。ずいぶん回り道をしているが、それだけに得たものも多い。

日本のみならず世界中の人々が、自然を熟知し、その知恵を駆使した美しい染織品を生みだしてきた。そうした物を作る現場に出かけてきたのは、その地理的歴史的環境とそこに暮らす人々を少しでも知りたい、そうすることでリアリティーを得られると思ったからだ。それは、われわれの作品制作という個の表現を、内側から支えるしなやかな骨ではないかと私は思う。機会あるごとに映像と実物資料に触る授業をしてきたが、そうした意図を学生たちがいつか思い出してくれるなら嬉しい。

芸術という豊饒の海からは、だれでも無限の幸を得ることが可能だが、時には嵐に巻き込まれ、自ら白い珊瑚となって浜辺に打ち上げられることもある。

創作の「創」とは、自らを創つけるという意味があると語られた八木一夫先生や、教育はあたためた卵から蛇が孵った驚きにも似る、と話された山本六郎先生も懐かしい。

世にも稀なこの美術の学校は、これから先も何者かになろうとする若者たちの揺り籠であり続ける。

これまでささえて下さった皆様に心から感謝申し上げます。

京都市立芸術大学退任記念

「旅する布たちーひろいのぶこ展ー」

2017. 3.11(土) ~3.26(日) 11:00 ~19:00

<13(月)、21(火)休館>

羊毛や絹などの繊維を中心に、紙・金属・貝・珊瑚などの素材、織る・組む・縫う・縮絨などの技法による平面や立体、インスタレーションの作品数十点を展示します。

また、日本と世界をめぐる染織研究の旅を通じて、ひろい自身が収集した多種多様な染織品や道具類、素材なども展示します。

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

ギャラリートーク：3.11(土) 14:00 ~ / ひろいのぶこ × 井上明彦 京都市立芸術大学・教授(造形計画) × 永守伸年 京都市立芸術大学・講師(哲学)
3.20(月・祝) 14:00 ~ / ひろいのぶこ × 上羽陽子 国立民族学博物館文化資源研究センター・准教授(民族芸術学・染織研究)

オープニングレセプション：3.11(土) 16:00 ~





会員展覧会

(2015年2月～2016年2月)

■ 同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。

会員作品展

<2016 年>		
2/9～15	荒瀬隆造油彩画展―静謐な時と光のはざまで―	広島三越
2/16～3/6	大森翠展	西脇市岡之山美術館
3/28～4/3	小曾根環展 ― syakkei ―	O ギャラリー
4/5～10	上田晴也 遺作展 軌跡に想いを巡らせて	アートステージ 567
4/7～17	重岡良子展 ～花遊び～	ギャラリー石堀小路和田 ①
4/12～17	松本静明展 ―記憶喪失者のメソッド―	アートスペース虹
4/28～5/29	望月玉船・和風展	中信美術館 ②
5/1～7	傘寿記念二人展 田中義夫、田中可芳代子	ギャラリー千代田
5/10～15	村上郁夫日本画作品展 京洛四季彩	社家町 space 棕
5/10～21	DAS SCHLOSS <城>―予め失われた真理のために 人長果月 二瓶 晃	ギャラリー 16
5/18～23	河野裕子個展―花集め―	art Truth ④
5/21～29	荒瀬隆造 油彩画展	御池画廊
5/22～29	國松万琴展 ―舟のある家、刻の庭―	松雲荘 吉村家
5/24～29	石田有作 白磁展	ギャラリー マロニエ
5/24～29	浅井敬二 個展	アートスペース東山 ③
5/24～6/4	上住雅恵展 ― Air II ―	ギャラリー 16
5/24～29	岡田親彦 ガラスとことば遊び展	藤田美術館ホール
6/1～12	岡田親彦 ガラスとことば遊び展	夢空間はしまや
5/31～6/5	吉田真紀子展	ギャラリー恵風
6/1～7	大垣早代子 洋画展	仙台三越
6/13～25	渡辺信明展「遠雷」	ギャラリー白
6/14～7/10	舞原克典 展 ―色鉛筆画―	ギャラリーなかもら
7/18～23	山田俊行展 ―重複―	ギャラリー白
9/6～10/8	宮本佳美 個展	imura art gallery
10/1～10	大森翠 素描 水彩 展	アートステージ 567
10/8～13	川瀬陽子展 2014-2016	トア ギャラリー
10/17～29	橋本正司展 ～彫刻・版画～	繪画廊
11/1～6	河野裕子個展 私の作画。過去の記憶。	ノリタケの森ギャラリー
11/18～29	長谷川誠子展 日々と永遠	ギャラリーさざれ石 ⑤
11/19～12	/42016 田中直子展	アートゾーン神楽岡
11/21～26	公庄 直樹 木彫展「そこにいる彫刻」	山陽百貨店
11/21～26	吉田真紀子展	ギャラリーブチボワン
11/21～26	小曾根環展	ギャラリー白
11/21～26	長谷川睦展 海の底に	林ギャラリー白 3
12/2～11	貴志早苗展 ―宙と風と星と― J	ARFO 京都画廊
<2017 年>		
1/14～19	金井良輔展 n.53 彫刻 素描 水彩	TOR GALLERY
1/17～2/5	あばりあみ☆あみの世界 新田恭子個展	森の小枝ギャラリー
1/24～2/19	井上よう子展	ギャラリーなかもら
2/3～12	樹木の生命を描く 一田中直子作品展―	京都府立植物園

会員グループ展

<2016 年>		
1/26～31	会員作品展 2016 茨木佐知子、内田勇一、片山晋、天坊早希、前田亜美、森田大輔、吉田孝光 他	ギャラリー中井
2/2～14	創造する画家たち展	ギャラリー Create 洛
2/9～14	いま、戦争の兆しに心いたむ美術家たちが語りかける展覧会 京都市立芸術大学卒業生 他	ギャラリーマロニエ
2/19～4/3	第 5 回 備前備中バルセロナ モンカーダ国際芸術祭	旧野崎家住宅他岡田親彦 他
3/28～4/3	第 30 回象展 青木弘年、安藤邦典、岡田宏三、川上博子、高見澤美代子、谷野徹也、寺田茂樹、中越出、中島智恵、二階堂忠、平島光、藤田清照、古川睦子、前垣内輝行、水速信孝、宮島みどり、安森正子、柳和子、柳田輝子、山崎和代、山本加代子、横井智恵子、吉田敏子、依田鏡子	ギャラリーくばた
4/5～4/10	第 40 回 Q 人の作品展 宇井恭子、奥田正子、奥田迪、貴志早苗、永谷正二、吉田恵美子	京都府立文化芸術会館
4/19～24	第 3 回 ヌフ展 京都芸大 O B 仲間 上山八洲子、サトーキミエ、東樋口美智子、古川睦子、宮島みどり、柳田輝子、山崎和代、山本加代子、依田鏡子	京都府立文化芸術会館
5/3～4	第 29 回 西山高原アトリエ村展 落合孝子、角田哲郎、貴志カスケ、貴志早苗、久保良裕、斉藤かずこ、斉藤均、柴田良三、森口信一 他	西山高原アトリエ村
4/25～5/1	Group 京	あかね画廊
5/17～22	Group 京 伊藤弘之、井上よう子、小曾根環、河合美和、城野愛子、善住芳枝	ギャラリーあじさい ⑤
5/15～6/15	第 2 回 2016 大阪御堂筋アート 小曾根環 他	三井住友銀行備後町支店
5/17～29	もうひとつの森 関根勢之助、大森翠 他	ギャラリーモーニング
6/21～7/9	6 つの位置のストーリー 今村直美、森本貴史、渡邊野子、荒井利恵子、安東智香 他	堀川御池ギャラリー
7/12～17	2016 京都銅版画協会 ミニアチュール展 前川秀治 他	ギャラリーヒルゲート
7/15～27	大阪彫刻家会議 2016 夏 彫刻展 ヒロ忠之	他ギャラリーいろはに
7/19～24	2016 京都市立芸術大学美術教育研究会 双線美術 京都支部展	ギャラリー吉象堂
7/24～8/6	第 9 回 真夏のアートフェスティバル ヒロ忠之 他	ギャラリー菊
7/23～8/3	ミニアチュール神戸展 vol.16 小曾根環 他	ギャラリー島田
7/29～8/3	第 28 回 4 B 展 京都市立芸術大学美術教育研究会 兵庫支部	南天荘画廊
8/4～14	第 4 回 今西英雄とその教え子たち展	東桜会館
8/29～9/10	Painterliness 2016 河合美和、善住芳枝、中島一平、渡辺信明 他	ギャラリー白
9/13～19	2016 滋賀双線美術展 京都市立芸術大学美術教育研究会滋賀支部	滋賀県立近代美術館
9/17～25	丹波篠山・まちなみアートフェスティバル 2016 伊藤悠鈴 岡田親彦 河合美和 水上雅章 安井友幸 他	河原町妻入商家群
9/26～10/2	EXHIBITION by ZERO! 小曾根環 他	あかね画廊
10/4～9	第 30 回 思可半展 in 京都 後藤健吉、貴志 勉、佐伯栄治、貴志博子、桑島孝美、平野年紀、井上順子、矢野康子、堀りつ子、大川原誠人、兼若和、西山寛	Gallery Maronie ⑥
10/19～25	半世紀の邂逅 京大（現・京都芸大）卒・6 人の仲間たち 長田善史、清水勲、平松枝里子、堀泰明、三上曜雄、依田鏡子	正光画廊
11/2～5	第六回 21 世紀関西女性絵画展兵庫県立美術館 大山幸子、小曾根環、澤村はるな、城野愛子、砂坪かほる、善住芳枝、谷村能子、萩由利絵 他	京都市美術館
11/15～20	GOOD ART 41st Exhibition beyond the wave 吉田孝光他	
<2017 年>		
1/8～14	第 54 回 大阪双線美術小品展 京都市立芸術大学美術教育研究会大阪支部	大阪現代画廊
1/13～22	しん 京都市立芸術大学 日本画西田眞人ゼミ仲間達展 石田佳央理、猪股美春、于楊、大村美玲、織田みき、北川博司、北島文人、佐々木優、澤村はるな、曾我部世津子、谷口亮、西川礼華、松下葵、依田真知、依藤秋帆 西田眞人、	ギャラリーあじさい
1/24～29	会員作品展 2017 茨木佐知子、片山晋、菊池啓二、天坊早希、森田大輔、吉田孝光 他	ギャラリー中井



①



②



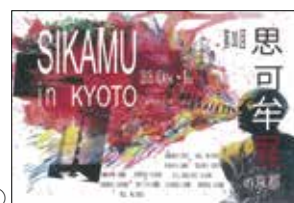
③



④



⑤



⑥

学内消息 (資料)

(2016年1月～12月)

1月 9日～2月 7日	ARTIST WORKSHOP @KCUA 成果発表展 / パヴェウ・アルトハメル+アトゥル・ジエフスキ「House of Day, House of Night (昼の家、夜の家)」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
1月15日	公開授業 「比較文芸論」 濱口竜介監督 (学内 L1 教室)
1月16日～1月17日	2016 年度大学入試センター試験
1月16日～2月 7日	ARTIST WORKSHOP @KCUA 成果発表展 / ネリー・ソニエ「Feather」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
2月10日～2月14日	2015 年度卒業・修了作品展 (京都市美術館及び本学構内)
2月10日～2月14日	博士有志展「INTERIM SHOW 2016」(大学構内)
2月10日～2月21日	Open Diagram (元崇仁小学校)
2月20日～3月21日	グイド・ヴァン・デル・ウェルヴェ個展「killing time/ 無為の境地」、奥村雄樹個展「な」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
2月24日～2月26日	京都芸大「境谷小学校レジデンス」平成 27 年度京都市立境谷小学校 作品展 (京都市立境谷小学校)
2月25日～26日	2016 年度美術学部入学試験
3月 1日	2016 年度大学院美術研究科博士 (後期) 課程入学試験
3月7日	2016 年度美術学部・大学院美術研究科博士 (後期) 課程合格発表
3月23日	2015 年度卒業式・学位配授与式
3月26日～4月 3日	京都市立芸術大学移転支援事業 「京都芸大同窓会アートフェア 2016」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
3月31日	伊東徹大教授退任
4月 1日	永守伸年講師着任
4月 8日	2016 年度入学式
4月12日～5月15日	芸術資料館収蔵品展 第1期「鑑古考新—新収蔵品展」(芸術資料館)
4月16日～5月29日	京都市立芸術大学移転プロジェクト「still moving — on the terrace」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、崇仁地域)
5月19日～5月22日	第62回五芸術大学体育・文化交歓会 (五芸祭) (金沢美術工芸大学)
5月21日～6月26日	芸術資料館収蔵品展 第2期「四季を描く—近代花鳥風月」(芸術資料館)
5月23日	森田りえ子客員教授特別授業「今を生きる学生の皆様に伝えたいこと—森田りえ子 日本画を描き続けた35年の軌跡—」(相国寺承天閣美術館)
6月11日～6月17日	エミリー・ペドロ「unfired」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
6月11日～7月31日	植松永次個展「兎のみた空」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
6月28日	平成28年度文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業「状況のアーキテクチャー」
～2017年3月31日	
7月1日	創立記念日
7月 2日～8月 5日	芸術資料館収蔵品展 第3期「妖怪三昧—異形のものの棲むところ」(芸術資料館)
7月 6日～	「京の七夕」地下鉄二条城前駅、願ひ短冊の小路に、デザイン科2回生の学生の作品を展示
7月13日	貝沼航氏特別授業「これから私たちは何をデザインするべきか?—新しい時代の“消費されない”商品の作り方—」(大学会館交流室)
7月16日～31日	2016 年度京都市立芸術大学 総合基礎実技展「キトリ展」(中央棟大ギャラリー)
7月31日	美術学部オープンキャンパス (本学構内)
8月 2日～8月 7日	サマーアートスクール (大学構内他)
8月 4日	夏休み子ども写生大会 (京都市動物園)
8月 4日～8月14日	芸術資料館収蔵品展「ART であしあと7 正方形の扉から—版画専攻共同制作“PRINTLAB”」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
8月 4日～8月21日	黒宮菜葉個展「夜—朧げな際(きわ)」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
8月 6日～8月12日	京の七夕 (堀川会場・鴨川会場)
8月10日	状況のアーキテクチャー公開講座「新たな芸術大学の構想に向けて—十字路としての芸術・大学・建築」(キャンパスプラザ京都)
8月20日～9月4日	展覧会「通りぬけフープ」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
8月30日～9月19日	京都市立芸術大学芸術学研究室による総合選抜展 Colors of KCUA 2016「ニューバランスはあらわれた」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
9月10日～9月19日	災害復興支援・芸術活動支援チャリティーオークション「SILENT @KCUA 2016 (サイレントアーク)」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
9月10日～10月2日	ニュー・ブランシュ KYOTO 2016 @KCUA/ ヴィラ九条山との共同プロジェクト「NEW LIFESTYLE」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
9月15日	状況のアーキテクチャー公開講座「フィールドワークと新しい設計手法—十日町分室と京都市美術館より」(メルパルク京都)
9月20日～10月23日	芸術資料館収蔵品展 第4期「平安百景—粉本にみる明治の京都」(芸術資料館)
9月28日～10月2日	ニュー・ブランシュ KYOTO 2016 @KCUA/ アンスティチュ・フランセ関西との共同プロジェクト「2016/ Arita Porcelain」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
10月 5日	八代利江子氏特別授業 舞台・テレビの美術制作 (大学会館交流室)
10月 5日	漂流するアクアカフェ vol. 5 モリムラカフェ: なんて大学移転なん?—森村泰昌氏を迎えて (大学会館サロン)
10月 1日～12月31日	2016 年度ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (イギリス)、シドニー大学 (オーストラリア)、中央美術学院 (中国)、国立高等美術学校 (フランス)、国立高等美術学校 (フランス)、ミラノ工科大学 (イタリア)、アールデコ・パリ (フランス)、アールト大学 (フィンランド)、交換留学生派遣及び受入れ
10月10日	状況のアーキテクチャー公開講座「プリコラージュ・漂流教室・オーダーメイド」(京都国立近代美術館)
10月16日	状況のアーキテクチャー公開講座「まねびの環世界」(京都国立近代美術館)
10月22日～11月27日	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMN 展覧会「マーティン・クリード」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
10月29日	京都芸大・西京区地区連携企画 京都芸大アートスクール in 西京 2016「デザインが社会にできること—大原野地域活性化のための活動を通して—」(西京区役所洛西支所)
10月29日～30日	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMN マーティン・クリード「Work No. 1020」(京都府民ホール“アルティ”)
10月29日～12月 4日	芸術資料館収蔵品展第5期「美人画—粧いと風俗」(芸術資料館)
10月30日	サマーアートスクール「中高生に向けたデザイン基礎講座」(大学構内)
11月 5日～11月 7日	京都市立芸術大学芸大祭 2016
11月13日～11月18日	2017 年度大学院美術研究科修士課程入学試験
11月24日	2017 年度大学院美術研究科修士課程合格発表
12月 1日～12月11日	京都市立芸術大学第27回留学生展 (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
12月12日	赤木明登氏特別授業「工芸のゆくえ」(大学会館交流室)
12月16日	状況のアーキテクチャー公開講座「リサーチプログラム—Around the Terrace」(京都芸術センター)
12月17日	カワイオカムラ「ムード・ホール」(京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)
～2017年1月22日	
12月23日～12月24日	THE GIFT BOX 2016 アーティストが提案する特別なギフト (京都文化博物館別館ホール)

事務局だより

ニセ名簿業者、同窓会関係者や同窓生を騙って情報を聞き出す うとする者にご注意を

同窓会からの案内は、同窓会の所在地（大学内に設置）や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点は同窓会へ電話などで直ぐにお問合せください。

「同窓生名簿 2015」について

2015 年 7 月に発行しました「同窓生名簿 2015」まだ在庫があります。ご希望の方は代金 3,500 円（送料込）をご送金ください。折り返し送付いたします。但し、原則、同窓生 1 人につき 1 冊ですので、既に 2015 年版名簿をご購入の方はご購入できません。

「京都芸大アートフェア 2016」の図録について

昨年 3 月から 4 月にかけて京都市立芸術大学ギャラリー @ KCUA にて開催されましたアートフェアの図録を作成しました。まだ在庫がありますので、ご希望の方は 1,000 円（送料込）/1 冊をご送金ください。折り返し送付いたします。

振込先：郵便局に備え付けの振替用紙（青色）をご使用ください。

口座番号：01030-7-12844

加入者名：京都市立芸術大学同窓会

通信欄：ご希望の冊子名（冊数） 氏名、卒業年、専攻、
住所（送付先）、電話等

**同窓会費納入をお願いします。終身会費納入期間を延長しました。
また、会報象 NO.64 は経費節減のため 2015 年まで会費を納められた方に送りましたのでご了承ください。**

お詫びと訂正

同窓会会報象 NO.63 P.7 の同窓会賞受賞者のお名前に誤りがありましたので、深くお詫びして下記の通り訂正いたします。

芸術学専攻（芸術学）院2回生

（誤）中田 愛乃→（正）田川 莉那

次の場合は、事務局までご連絡ください

●同窓会後援名義使用

同窓会会費を納入されている会員が主宰する作品展など（個展、グループ展）で同窓会の後援名義使用を希望される方。

●展覧会の案内、情報

同窓会宛に送っていただいた展覧会の案内、情報はホームページや会報に掲載しています。

●満80歳以上の会員 会費免除を希望される方はご連絡ください。

過去 10 年間同窓会会費を継続して納入いただいた満 80 歳以上の会員で会費免除を希望される方。

●氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの諸情報をお届けできなくなりますので郵便、FAX、メールのいずれかの方法でご連絡ください。ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

編集後記

●1月に入り、いよいよ厳しい寒さとなり、同窓生の皆様がお住まいの各地での降雪による影響はいかがでしょうか。何より春の到来が待たれます。

●大学移転計画については本報1頁に記載されております通り、“Terrace（テラス）”を基本コンセプトとし、協議、検討が重ねられ、少しずつ具体化しており、平成35年度の新キャンパスオープンをめざしています。近々、移転整備基本計画もまとまる予定です。

今年より元崇仁小学校の管理が大学に移り、美術学部学生のレジデンスなど、様々な活用の可能性が考えられるとのこと。

大学施設整備基本規定が昨年6月に施行され、その目的の一つである移転に伴う施設の整備、充実に対する支援に対して、同窓会も昨年のアートフェアの収入の寄付をはじめ、今後も積極的な支援を行っていきます。皆様からのご支援、ご寄附もどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、美術・音楽両学部同窓会が大学と共同して実行委員会を組織し、“オール芸大”で力を合わせ移転事業に関わります。

同窓会としては同窓会活動の拠点となる施設設置の要望を大学に伝えています。

●東山今熊野から洛西大枝杵掛の地に移転してきた1980年（昭和55年）からまた、新たな地への移転へ、時代と共に大学も移り変わっていきますが、今、ここで再び、1980年代を再考するプロジェクトの活動が始まっています。本報4頁に掲載された今熊野学舎の写真を、懐かしい思いでご覧になっておられる方も多いことでしょう。

80年代の文献や資料が少ない現状もあり、当時の関連資料をお持ちの方はぜひお知らせ下さい。

（会報編集委員長：阿部 緑）